

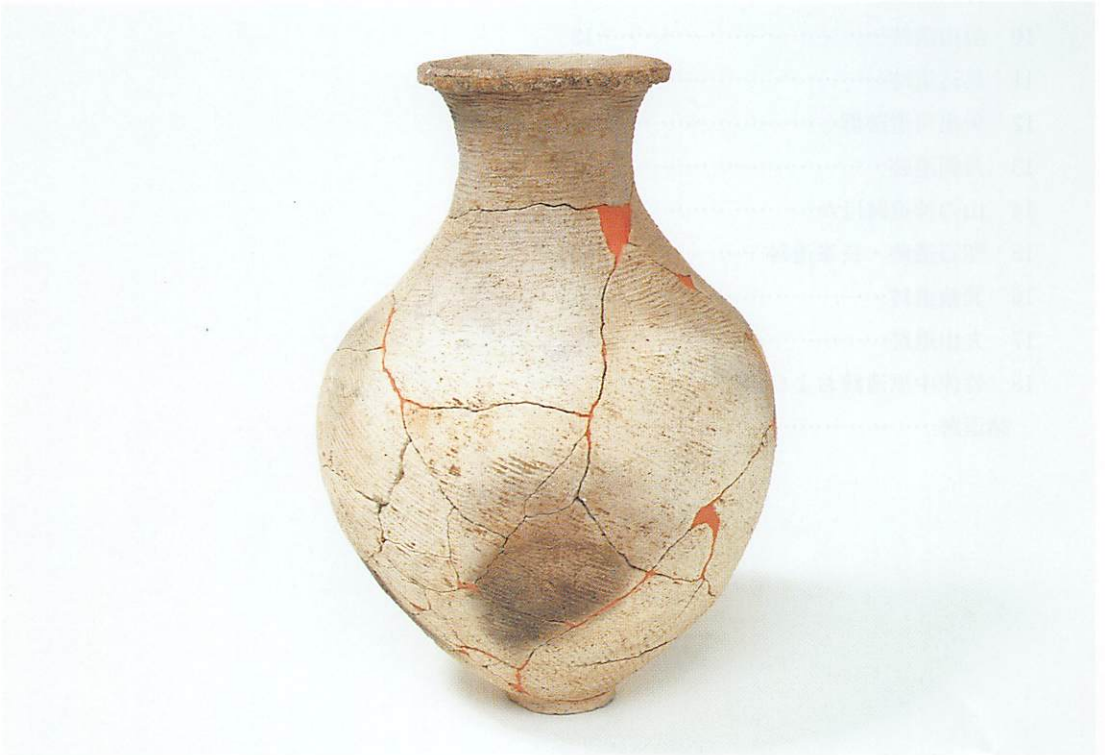
長野県埋蔵文化財センター年報19

2002

財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター



豊田村 千田遺跡出土品



上山田町 力石条里遺跡群出土土器棺

目次

口絵写真

- 豊田村 千田遺跡出土品 (上)
- 上山田町 力石条里遺跡群出土土器棺 (下)

目次

I 発掘調査及び整理作業の概要	1	II 普及・公開活動の概要	
1 仲町遺跡	3	1 現地説明会	22
2 川久保遺跡	4	2 展示会等	23
3 貫ノ木遺跡・照月台遺跡	4	3 指導・研究会・学習会	24
4 千田遺跡	5	4 刊行物	24
5 東中曽根遺跡ほか	6	III 機構・事業の概要	
6 力石条里遺跡群	9	1 機構	25
7 鎌田原遺跡	11	2 事業	25
8 野火附遺跡	12	平成14年度役員および職員	29
9 野火附城跡	12		
10 離山遺跡	13		
11 馬込遺跡	13		
12 矢出川遺跡群	14		
13 月岡遺跡	14		
14 山の神遺跡ほか	15		
15 聖石遺跡・長峯遺跡	16		
16 箕輪遺跡	17		
17 丸山遺跡	18		
18 竹佐中原遺跡および飯田市山本地区 諸遺跡	19		

I 発掘調査及び整理作業の概要

平成14年度の発掘調査は高速道路、新幹線、高規格道路、国道バイパス、国営公園、千曲川築堤、県道改良事業、畑地帯総合整備事業、広域農道の諸遺跡を対象とした。整理作業は国道バイパス、国営公園、県単農道整備、担い手育成基盤整備事業を対象とした。

発掘調査のうち、中部横断自動車道の鎌田原遺跡、国道474号飯喬道路の竹佐中原遺跡・辻原遺跡、国道18号野尻バイパスの仲町遺跡、同上田篠ノ井バイパスの八幡遺跡群、国営アルプスあづみの公園の肩平遺跡・まねき遺跡、県道力石バイパスの力石条里遺跡群、畑地帯総合整備事業の矢出川遺跡は昨年度以来の継続調査で、それ以外は同一事業も含めて新規の調査遺跡である。

整理作業は国営アルプスあづみの公園の山の神遺跡、県単農道の丸山遺跡については印刷・刊行まで終了し、他の遺跡は年次整理計画にしたがって整理業務を実施した。

以下、実施事業の概要を一覧表に示す。

[発掘調査]

国道18号野尻バイパス関連

所在地	遺跡名	調査面数	調査面積 ㎡	調査期間	調査 状況	主な検出遺構	主な出土遺物
信濃町	仲 町	2	1,100	14/5/7 ～7/25	終了	旧石器時代ブロック 縄文時代陥し穴	台形石器、ナイフ形石器等 縄文早期・前期土器

千曲川替佐築堤関連

豊田村	千 田	1	10,000	14/4/15 ～11/29	継続	縄文時代中期土器捨場 縄文時代後期墓跡群	縄文中期・後期土器、石器、 土製品、装飾品
-----	-----	---	--------	-------------------	----	-------------------------	--------------------------

北陸新幹線関連

中野市	月 岡	1	150	14/11/25 ～12/6	継続	土坑、柱穴跡、塚状遺構	弥生・古墳・中世土器、青 銅製香炉
-----	-----	---	-----	-------------------	----	-------------	----------------------

国道18号上田篠ノ井バイパス関連

更埴市	社宮司	1	335	14/4/15 ～12/20	終了	平安時代掘立柱建物跡、溝、 土坑	平安土師器、灰釉陶器、木 製品
	西中曾根	1	2,401		終了	弥生時代後期土坑 古墳時代中期住居跡	弥生後期・古墳前期・中期 土器、土製勾玉、管玉
	東中曾根	1	5,146		終了	弥生時代後期集落	弥生後期土器、石製品
	東 條	2	4,191		継続	古墳時代後期～平安時代集 落	古墳後期土器、奈良～平安 土師器、墨書土器、耳環
	峰謡坂 他		26,785		終了	6地点の試掘調査	

県道力石バイパス関連

上山田 町	力石条里遺 跡群	3	6,250	14/6/1 ～12/26	継続	弥生時代前期末～中期初頭 土坑、 弥生時代後期集落 中世以降水田跡・畑跡	弥生前期末～中期初頭土 器・石器・土偶 弥生後期土器・石器 古墳土器 中・近世陶磁器・石器、銭
----------	-------------	---	-------	------------------	----	---	---

中部横断自動車道関連

小諸市	鎌田原	1	5,800	14/5/23 ~12/5	終了	古墳時代前期・後期集落	古墳前期・後期土師器、玉類、縄文中・後期土器
	野火附城跡	1	14,000	14/5/20 ~12/11	継続	中世掘立柱建物跡・土塁・溝・削平地・土坑 縄文時代住居跡・陥し穴	縄文中・後期土器、弥生~古墳土師器・須恵器、中・近世陶磁器
	野火附	1	3,200	14/10/15 ~11/8	継続	古墳時代後期集落	古墳土師器

県道川上佐久線改良関連

白田町	離山	5	920	14/4/8 ~5/27	終了	古墳時代住居跡、平安時代住居跡、土坑、配石、水田跡	古墳~平安土師器・須恵器、石器
-----	----	---	-----	-----------------	----	---------------------------	-----------------

広域農道佐久南部関連

八千穂村	馬込	1	4,000	14/9/2 ~12/25	継続	土坑	黒曜石碎片
------	----	---	-------	------------------	----	----	-------

畑地帯総合整備事業関連

南牧村	矢出川	1	2,660	14/10/1 ~12/6	終了		黒曜石剥片
-----	-----	---	-------	------------------	----	--	-------

国営アルプスあづみの公園関連

大町市	肩平・まねき	1	5,000	14/4/22 ~6/13	終了	縄文時代土坑	縄文土器、剥片
	肩平・山の神	1	2,610	14/6/6 ~6/28	継続	試掘調査（住居跡、土坑、集石塚等確認）	縄文土器

国道153号松島バイパス関連

箕輪町	箕輪遺跡群	1	2,000	14/4/4 ~5/2	終了	水田跡、杭列、溝	古墳土師器、平安須恵器、中世焼物、
-----	-------	---	-------	----------------	----	----------	-------------------

国道474号飯香道路関連

飯田市	竹佐中原	1	13,250	14/4/11 ~12/20	継続	旧石器時代ブロック、弥生時代住居跡	局部磨製石斧、剥片、碎片 縄文・弥生土器、石器
	森林	1	9,350		継続	弥生時代住居跡	ナイフ形石器、剥片 縄文・弥生土器、石器
	辻原	1	600		継続	縄文時代土坑	縄文土器
	久米上田	1	45				
	久米大畑	1	15				
	川路大明神原	1	80				

【整理作業】

事業名	所在地	遺跡名	作業内容
国道18号野尻バイパス関連	信濃町	仲町ほか	遺物実測、図面整理
国営アルプスあづみの公園関連	大町市	山の神	遺物実測、図面整理、印刷、刊行
担い手育成基盤整備事業関連	茅野市	聖石、長峯	遺物接合・実測、図面整理
国道153号伊那バイパス関連	箕輪町	箕輪遺跡群	遺物洗浄・注記・木器実測
県単農道整備	飯島町	丸山	遺物実測、図面整理、印刷、刊行

1 ^{なかまち}仲町遺跡 (国道18号野尻バイパス関連)

所在地：上水内郡信濃町大字野尻字上ノ原730-1 他

調査担当者：鶴田典昭 中島英子

調査期間：平成14年5月7日～7月25日

調査面積：1,100m²

遺跡の立地：丘陵上の平坦部

検出遺構：旧石器時代のブロック・礫群・炭化物集中。
縄文時代の陥し穴。

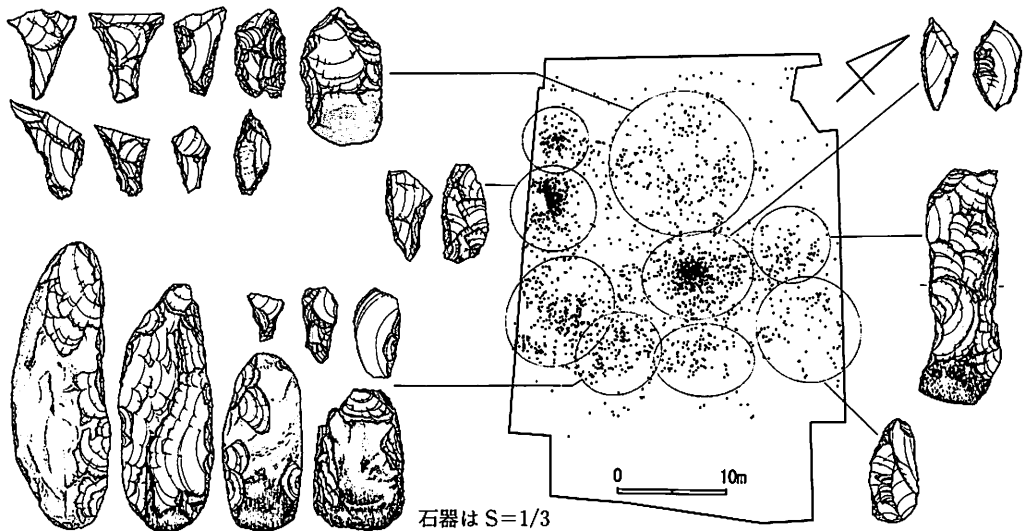
出土遺物：旧石器時代の石器群約3,800点、礫群。縄
文時代早期・前期の土器、石器少量。

調査の概要：平成12年度に調査した除雪ステーション地点の隣接地を調査した。旧石器時代の石器は、台形石器18点、ナイフ形石器25点、斧形石器9点、砥石1点の他、槍先形尖頭器、楔形石器、削器、搔器、敲石、凹石などが出土した。礫群の層位的な検出状況からIV層中部とV b層上部の2つ生活面を捉えることが可能である。石器群の多くは、AT降下以前のV b層上部に生活面をもつものであり、無斑晶質安山岩、チャートが主体的な石材で、黒耀石、玉髓などがこれに加わる。第2図にV a層・V b層の遺物分布図を示した。遺物分布が調査区外に広がっており、全容を把握できないが環状ブロック群である可能性がある。

なお、仲町遺跡は平成11年度より調査を進めており、本年度より整理作業を開始した。本年度は、約25,000点に及ぶ旧石器時代の石器群をはじめ、県道地点の北国街道野尻宿関連の遺構・遺物の整理作業を進めた。平成16年3月に報告書刊行予定である。



第1図 仲町遺跡の位置 (1:100,000)

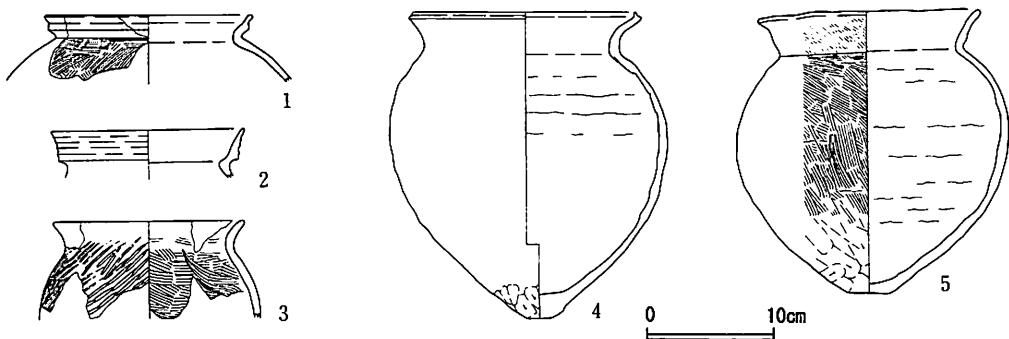


第2図 除雪ステーション地点 AT下位の礫群の出土状況

2 ^{かわくぼ}川久保遺跡（国道18号野尻バイパス関連・整理作業）

担当者：鶴田典昭 山崎まゆみ

経過と整理作業 本遺跡は、上水内郡信濃町大字野尻字川久保に所在し、信濃と越後を結ぶ東山道の支道と推定されている、国道18号（北国街道）沿いにある。調査区は野尻湖に隣接する低地の縁辺部に位置しており、平成11・12年度の発掘調査により、信濃町では希少な古墳時代の土器が多量に出土し、注目を集めた。本年度より本格的な整理を開始し、縄文時代前期・後期、弥生時代中期・後期、古墳時代前期・中期、古代、中世の遺物の復元と図化をすすめた。特に、弥生時代末から古墳時代では、東海系、北陸系の土師器が多く見られ、峠の近くに立地する本遺跡の性格を考える上で、非常に興味深い。



第3図 川久保遺跡出土の外来系土器（S = 1/6）

3 ^{かんのき}貫ノ木遺跡・^{しょうげつだい}照月台遺跡（国道18号野尻バイパス関連・整理作業）

担当者：谷 和隆

経過と本年度の作業 貫ノ木遺跡と照月台遺跡は上水内郡信濃町大字野尻字上ノ原に所在する。旧石器時代～縄文時代草創期の遺跡が密集する野尻湖遺跡群に属し、両遺跡は隣り合っている。平成11年に調査がおこなわれ、本年度から本格的な整理作業が始まり来年度に報告書を刊行する予定である。本年度は遺物の実測・トレース、遺構のトレース等をおこなった。

遺跡の概要 貫ノ木遺跡は石器総数約2,900点、主な石器にナイフ形石器51点、台形石器8点、斧形石器4点、彫器26点、搔器80点、削器65点、楔形石器50点、石刃60点を確認した。

照月台遺跡は石器総数約4,000点、主な石器にナイフ形石器23点、台形石器18点、斧形石器7点、彫器14点、搔器27点、削器48点、楔形石器117点、石刃31点を確認した。

照月台遺跡の石器群は若干の混ざりこみがあるものの、層位的、型式学的分析から大部分が始良丹沢火山灰（AT）の降灰前後の石器群として評価されよう。

貫ノ木遺跡の石器群は大半が再堆積のローム層中から検出されている。しかし、照月台遺跡と石器型式や石材の特徴が一致し、両遺跡の間が約300mしか離れていないことから同一時期の可能性が高いと考えられる。

4 千田遺跡 (千曲川堤防新設工事関連)

所在地：長野県下水内郡豊田村大字豊津字千田

調査担当者：西山克己

調査原因：千曲川堤防新設工事に伴う発掘調査

黒岩 隆

調査期間：平成14年4月15日～11月29日

調査面積：延べ10,000m²

遺跡の立地：千曲川に面した段丘面上

遺跡の特徴：縄文時代中期の捨て場跡や掘立柱跡、縄文時代後期の墓跡群

主な検出遺構：捨て場跡ほか6、掘立柱建物跡1、掘立柱跡1、柵列跡14、墓跡21、落とし穴跡1

主な出土遺物：縄文時代中期・後期土器、打製石斧、磨製石斧、石鏃、磨石、石皿、ほか石器類、装飾品類、土偶、焼けた獣骨、その他

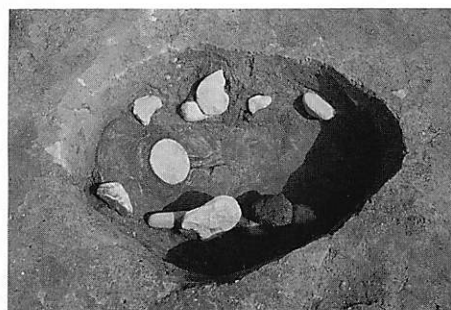
遺跡の概要：今年度調査区北東側の1/4地域については

千曲川に面した段丘面となり、1,000基以上におよぶ縄文時代後期から近世にかけての穴や掘立柱建物・柵列跡、さらには縄文時代後期の墓跡が集中して検出された。この墓跡には土器を墓壇内に伏せて埋めたり、石列を伴うものなどいくつかの形態が見受けられた。また残り3/4地域については段丘先端部や段丘面に接する低地部となり、縄文時代中期の捨て場跡などが検出され、捨て場跡SQ01・03・06では、非常に多くの土器や石器類、焼けた獣骨が捨てられていた。また、SQ06に面して、縄文時代中期末葉の1間×3間の掘立柱跡が検出された。

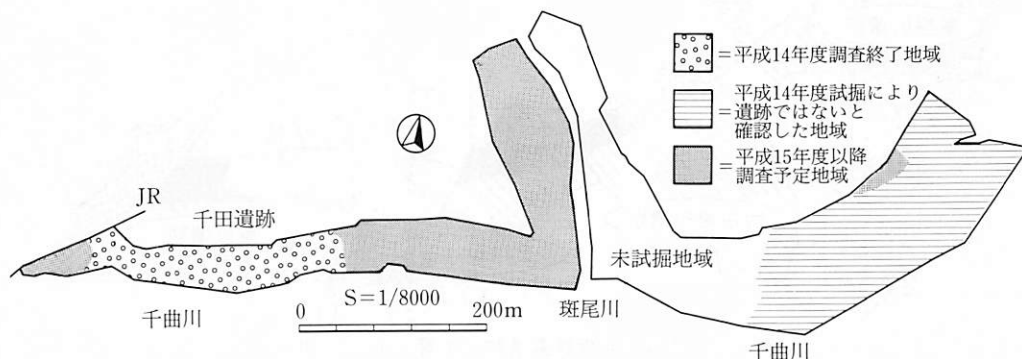
本調査とは別に広範囲に試掘調査を進め、用地内の斑尾川左岸地域の東側約1/2には遺構・遺物がないことを確認することができた。



第4図 千田遺跡位置図
(1:100,000)



第5図 縄文時代後期の墓 SM01



第6図 築堤用地内の調査状況

5 ^{ひがしなかそね} 東中曾根遺跡ほか（国道18号坂城更埴バイパス線関連）

調査担当者：町田勝則 豊田義幸 伊藤友久 寺内貴美子

所在地：更埴市八幡字東中曾根4039番地の1ほか

調査期間：平成14年4月15日～12月20日

調査面積：本調査12,093㎡

（社宮司遺跡355㎡、西中曾根遺跡2,401㎡、東中曾根遺跡5,146㎡、東條遺跡4,191㎡）

試掘調査26,785㎡

（峯謡坂遺跡4,224㎡、西中曾根遺跡低地部ほか7,984㎡、外西川原1,286㎡、八日市場2,000㎡、砂田8,291㎡、境無3,000㎡）

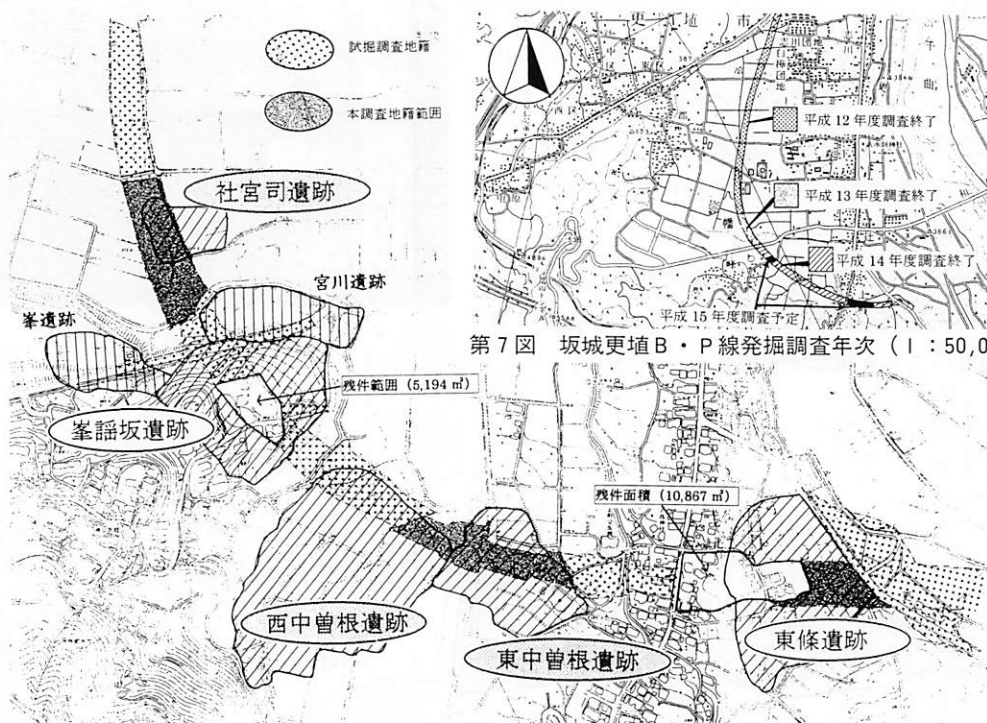
遺跡の立地：姨捨土石流台地

中心となる時代：弥生時代後期～古墳時代、平安時代

遺跡の特徴：社宮司遺跡は、更級郡衙推定地の近傍にあり、郡衙に関連する集落遺跡と考えられている。西中曾根遺跡及び東中曾根遺跡は、弥生時代後期に営まれた集落遺跡と推定され、東條遺跡は奈良時代以降の古代集落跡と推定されている。

検出遺構：社宮司遺跡 … 掘立柱建物址2棟、溝址6本、土坑址11基

西中曾根遺跡 … 竪穴式住居址3軒、溝址4本、土坑址37基



第8図 平成14年度調査遺跡の位置 (1:10,000)



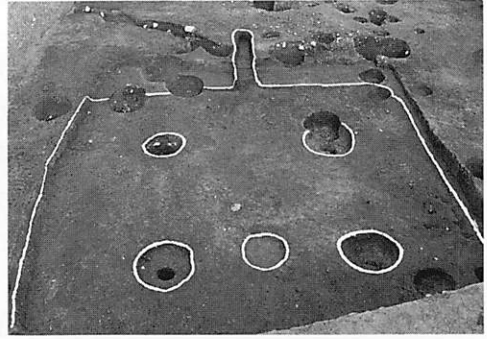
第9図 竪穴式住居の遺物出土状況



第10図 壺形土器の出土状況



第11図 土坑の遺物出土状況



第12図 竪穴式住居の完掘状況

東中曽根遺跡 … 竪穴式住居址14軒、溝址6本、掘立柱建物址4棟、土坑址134基

東 條遺跡 … 竪穴式住居址15軒、溝址10本、掘立柱建物址2棟、土坑址467基

主な出土遺物：社宮司遺跡 … 土師器・灰釉陶器・木製品・礎板材・柱材

西中曽根遺跡 … 弥生後期の土器・古墳前中期の土器・土製勾玉・管玉・磨製石庖丁

東中曽根遺跡 … 弥生後期の土器・石製品

東 條遺跡 … 古墳後期の土器・奈良から平安時代の土師器・墨書土器・耳環・羽口

調査の概要：社宮司遺跡（遺跡番号85-16）は、2001年度調査の残件部分を発掘し完全終了した。習書木簡を出土した1号溝は、調査区の西方に続くことが判明し、遺物量は西方に向かうに従い減少傾向が認められた。検出した2間×3間規格の掘立柱建物址には、前年同様に木製の礎板材と柱材が残存していた。

西中曽根遺跡（遺跡番号106）は、本年調査を開始し終了した遺跡である。姥捨土石流台地の先端部に位置し、古墳時代中期を中心とした集落遺跡と考え

られる。該期の竪穴式住居址3軒を確認したほか、弥生時代後期に属する土坑敷基を検出した。しかし、その多くは姥捨山裾部の土砂押し出しによって破壊され、集落の全体像は不明である。

東中曽根遺跡（遺跡番号89）も、本年調査を開始し終了した遺跡である。西中曽根遺跡とは、幅5mほどの沢によって隔てられた同一台地上の先端部に位置する。弥生時代後期の集落遺跡であり、検出した遺構及び遺物は全て該期に所属する。

東條遺跡（遺跡番号118）は姥捨土石流台地の末端部、千曲川の後背湿地部に隣接した場所に立地する。古墳時代後期から平安時代まで続く集落遺跡で、今回は遺跡範囲の概ね半分を調査した。

試掘調査

峯謡坂遺跡（遺跡番号105）は、宮川遺跡に面する北側斜面地を中心に試掘調査した。結果、出土遺物はなく、今回の試掘範囲については本調査の必要なしと判断した。遺跡の主要部分は未買収につき、次年度以降の調査となる予定。

西中曽根遺跡に隣接した北側斜面地及び打越川に隣接した低地部を試掘した。結果、遺構・遺物の発見はなく、西中曽根遺跡の範囲外と判断し、現況復帰し終了した。

外西川原遺跡（遺跡番号119）と同一地形面上に隣接して広がる低地部を試掘調査した。結果、遺物の包含、遺構の存在はなく、遺跡範囲外と判断し終了した。

八日市場地籍は、上町集落が既存しており、埋蔵文化財の有無は未確認である。南側に東條遺跡が隣接するため、東條遺跡の範囲確認を含め試掘を行った。結果、遺構・遺物の発見はなく、今回試掘した市道以北の部分については、本調査の必要はないと判断し、現況復帰し終了した。

境無及び砂田地籍は佐野川扇状地上に位置し、昨年まで未買収地であった場所を今回試掘調査した。結果、遺構・遺物は確認できず、本調査の必要はないと判断し終了した。

6 ちからいしじょうり 力石条里遺跡群（県道長野上田線力石バイパス関連）

所在地：更級郡上山田町大字山田字薬師堂ほか

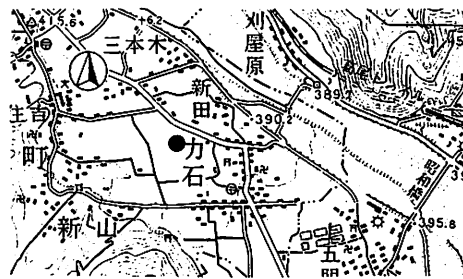
調査担当者：西 香子・太田秀保・青木一男

調査期間：平成14年6月1日～12月26日

調査面積：6,250㎡

遺跡の立地：千曲川左岸の沖積地

検出遺構：竪穴住居址33、掘立柱建物址2、溝址52、土坑473、焼土址8、水田址（畦畔、溝状遺構）



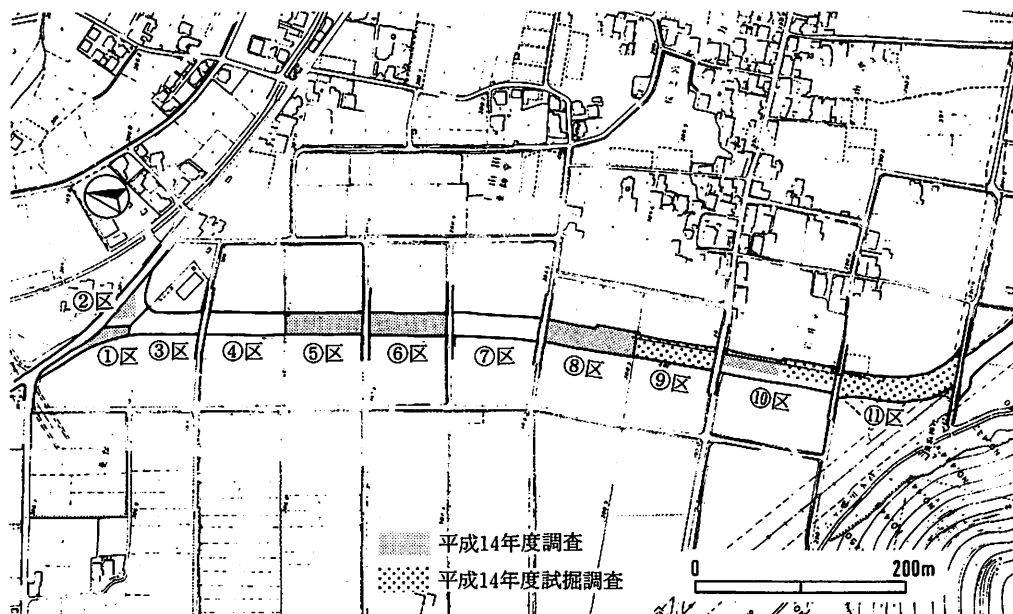
第13図 力石条里遺跡群位置図（1：50,000）

出土遺物：縄文時代後期の土器。弥生時代前期末～中期初頭の土器・石器・土偶。弥生時代後期の土器・石器。古墳時代の土器。中・近世の陶磁器・石器・銭・人骨。

調査の概要：調査地周辺は、力石条里遺跡群として周知されている。昭和63年度から3年間に渡り、圃場整備工事に係わる緊急発掘調査が、上山田町教育委員会により行われている。その時の調査では、縄文時代後期・晩期の土器片、弥生時代中期～古墳時代の住居址、中世の井戸址などが確認されている。

今年度の調査は、事業予定地内を①～⑩に分け、既買収地から調査を開始した。予想された弥生時代後期の集落址や中近世の遺構に加えて、新たに弥生時代前期末の墓場も確認し、注目された。以下、時代ごとに主な遺構の概要を記す。

弥生時代前期末～中期初頭 ⑩区では当概期の土坑を170基確認した。そのうち30基程は、墓壙と思われ、SK115・120とした2基は、土器棺を埋納しており、土器棺再葬墓であると思わ



第14図 調査範囲



第15図 弥生時代前期末～中期初頭の墓域 (⑩区)



第16図 土器棺再葬墓 (SK115)



第17図 弥生時代後期の集落 (⑤区)



第18図 丸太刳抜き井戸 (SK321)

れる。SK115からは、条痕文の壺がつぶれた状態で出土しており、埋土からは焼骨や、中央に小孔を穿った円形の薄い礫が出土している。SK120は、底部に穴を穿った無文の在来系の土器がほぼ完形で、正位で出土しており、掘り方からは、石製白玉が1点出土している。

弥生時代後期 2地点で集落域が明らかとなった。当概期の竪穴住居址は、⑤区10軒、⑥区22軒、⑩区で3軒確認した。⑤・⑥区で検出された住居址群は、ひとつの集落域を形成すると思われる。⑥区では、直径2.5m程の井戸址が2基確認されている。集落域の南側の外れにあたる場所から東西に並んで検出され、SK321とした西側の1基からは、丸太刳り抜きの井戸枠が出土している。その他に、⑧区でも当概期の土坑を数十基確認している。

中世以降 ①・②区で、当概期に属すると思われる水田或いは畑の耕作痕が確認された。⑤区では、土壙墓から人骨と銭が出土している。⑩区では、掘立柱建物址が1軒検出されている。また、⑤・⑥・⑧・⑩区のそれぞれの地区から、複数の土坑や井戸が確認されている。

試掘調査 調査は、平成15年度事業予定地の⑨～⑪区に、試掘坑5ヵ所を設定して実施した。その結果それぞれの地点で、1～3の文化層を確認し、⑨区では、弥生時代後期の住居址、⑪区では焼土址などを検出した。また、弥生時代～中世の遺物を採集した。

7 ^{かまたはら} 鎌田原遺跡（中部横断自動車道関連）

所在地：小諸市御影新田214番地ほか

調査担当者：桜井秀雄、宇賀神誠司

調査期間：平成14年5月23日～12月5日

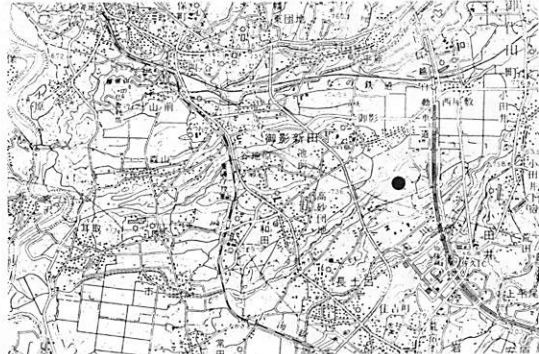
調査面積：5,800㎡

遺跡の立地：浅間山南西麓湧玉川左岸の台地

検出遺構：竪穴住居跡10軒、土坑10基

出土遺物：古墳時代の土師器、玉類

縄文中・後期土器



第19図 鎌田原遺跡位置図（1：100,000）

調査概要：昨年度に引き続いての調査となっ

た。本遺跡の調査総面積は9,800㎡であるが、昨年度はまず重機によるトレンチを17本入れて遺構密度を調べ、その結果を踏まえて、遺構密度の低い北西側4,000㎡についての面的調査を行った。今年度は残る5,800㎡の調査を実施したことになる。

今年度の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡10軒と土坑10基であった。竪穴住居跡の時期的内訳は、古墳時代前期の4世紀中葉～末葉のものが8軒、古墳時代後期の6世紀代と思われるものが2軒となっている。土坑の時期は不明といわざるをえない。また、本遺跡は佐久北部地域に特徴のないいわゆる「田切り地形」の台地上に立地しているが、遺構は田切りに近い調査区の北西部側には認められず、南東部側にその分布の中心がみられる。調査区外に伸びていく可能性もあろうが、概して小規模な集落であるといえるだろう。

本遺跡の所在する佐久平北部から浅間山南麓地域においては、3世紀後半頃から5世紀中頃にかけての時期に、小規模な集落が点在していることが知られている（小諸市石神遺跡群・御代田町塚田遺跡・佐久市腰巻遺跡など）。これらの小規模集落はその存続時期が短期間であることも特徴である。本遺跡もこうした短期間存続した小規模集落のひとつとして理解できよう。そのなかでも今回の調査の成果として特筆すべきことは、佐久地方では初めて4世紀末葉を含む集落の存在が明らかとなったことである。とりわけ、土器編年研究のうえでは今後の研究に対して貴重な資料として提示できるものと期待されよう。



第20図 調査区全景（下が南東側）

8 ^{のびつけ} 野火附遺跡（中部横断自動車道関連）

所在地：小諸市大字御影新田字野火附377番地ほか

調査担当者：宇賀神誠司

調査期間：平成14年10月15日～11月8日

調査面積：3,200㎡

遺跡の立地：浅間山麓南西斜面の田切りに接した台地上

遺跡の特徴：古墳時代前期と後期の集落跡

検出遺構：古墳時代後期の竪穴住居跡1軒、同期の掘立柱建物跡2棟、時期不明の土坑6基



第21図 遺跡の位置

平成5年度、上信越自動車道建設に引き続いての調査である。本年度は工事用道路部分のみ調査対象になったが、遺跡北西端部の姿が明瞭となった。また前回同様、すべて古墳時代で終始し、周辺に群がる律令期集落との相違点が著しく、本格的に始まる来年度の調査ではその再確認と、妥当ならば再度考究していく必要がある。

9 ^{のびつけじょう} 野火附城跡（中部横断自動車道関連）

所在地：小諸市大字御影新田字野火附415番地ほか

調査担当者：河西克造 上田 真

調査面積：14,000㎡

調査期間：平成14年5月20日～12月11日

遺跡の立地：浅間山麓南西斜面の田切りに接した台地上

遺跡の特徴：中世の城館跡

検出遺構：竪穴住居跡1軒、陥し穴1基（縄文時代）、竪穴建物跡1軒（平安時代?）、土塁、削平地、掘立柱建物跡1棟、溝（堀）15条、土坑約80基、近世墓1基



第22図 土塁と堀の調査風景

出土遺物：縄文時代中期、後期土器、弥生時代～古墳時代の土器、須恵器、中近世陶磁器、縄文時代の石器、石製模造品、砥石、銭貨、キセル

調査の概要：野火附城跡は、田切りに面して舌状にのびる台地上に立地する遺跡である。遺跡の南側半分を対象とした今回の調査では、地表面観察で確認された土塁とそれに並走する溝（堀）のほか、斜面で削平地と堀が確認された。台地上は、先端部を中心に半円形にめぐる土塁と堀により区画され、区画内は土坑が散在する様相を呈していた。出土遺物が僅少のため、遺構の時期比定は困難であるが、土塁と堀など主要な遺構は中世の構築物と判断され、地元に「城跡」と残る伝承を裏付けることができた。なお、城跡以降のものでは、18世紀後半～19世紀前半の墓坑や、遺跡内を通る古道の脇に祀られていた石仏（馬頭観音）がある。

はなれやま
10 離山遺跡 (県道整備事業関連)

所在地：南佐久郡白田町上中込5861-1ほか
調査担当者：桜井秀雄・上田 真・河西克造
調査期間：平成14年4月8日～5月27日
調査面積：320㎡ (延べ920㎡)
遺跡の立地：千曲川右岸の沖積地
調査の概要：白田町と佐久市との市町境に位置し、佐久市教委で調査された隣接する久禰添遺跡とは同一の遺跡であると考えられる。

調査は5面にわたり実施した。第1調査面では近世以降と思われる土坑1基を検出した。第2調査面では平安時代の竪穴住居跡1基、土坑3基、配石遺構7基、中世と思われる石積遺構1基等を検出した。第3調査面では洪水砂に覆われた水田跡が検出された。南佐久郡内では面的に確認できた初めての事例である。平安時代に比定できようか。第4調査面(6層上面)では土坑6基が検出された。またこの6層は洪水等により押し出された砂礫層からなるが、この砂礫に混じって

相当量の土器類が採集された。これを第5調査面とした。なお、土層断面観察にとどまった南側部分からも古墳時代の竪穴住居跡等が確認されている。



第23図 離山遺跡位置図 (1 : 100,000)



第24図 離山遺跡全景 (南から)

まごめ
11 馬込遺跡 (広域営農団地農道佐久南部地区整備事業関連)

所在地：南佐久郡八千穂村大字畑4478ほか
調査担当者：桜井秀雄・西嶋 力
調査期間：平成14年9月2日～12月25日
調査面積：4,000㎡
遺跡の立地：千曲川左岸、八ヶ岳山麓裾の尾根状に残る地形の頂部
検出遺構：土坑 42基
調査の概要：今年度は調査対象地のうち北側部分の発掘調査を実施した。土坑42基が検出されたが、時期については不明である。



第25図 馬込遺跡位置図 (1 : 100,000)

12 やでがわ 矢出川遺跡群（畑地帯総合整備事業関連）

所在地：南佐久郡南牧村大字野辺山字二ツ山

調査担当者：川崎 保

調査期間：平成14年10月1日～11月5日

12月5日～6日（工事立会）

調査面積：2,660㎡

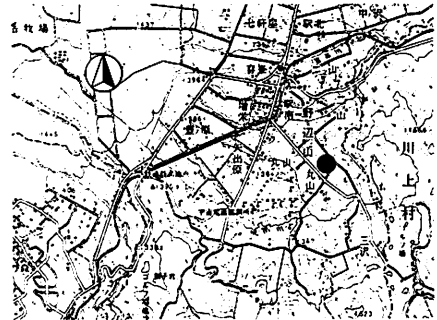
遺跡の立地：八ヶ岳山麓野辺山高原の東南端

出土遺物：黒曜石剥片

調査概要：検出段階で旧耕作土中やローム層直上で黒曜石剥片が出土したので、それぞれ周辺を精査したが、

いずれも単独の出土であった。平成12年度の試掘調査でローム層中から剥片が検出されたが、出土地点周辺を掘り下げたところ、試掘時にはプライマリーなローム層と判断した層が、旧耕土の上に盛土した現耕作土の基盤であると判明した。

遺物包含層は、ほとんど削平され残っていない。部分的に良好なローム層があったが、遺物は検出されなかった。昨年度の調査で検出されたような土坑はなく、調査を終了した。



第26図 矢出川遺跡群位置（1：100,000）

13 つきおか 月岡遺跡試掘調査（北陸新幹線関連）

所在地：中野市岩井月岡

調査担当：市川隆之・黒岩隆

調査期間：平成14年11月25日～12月6日

試掘面積：150㎡

遺跡の立地：山際の丘陵

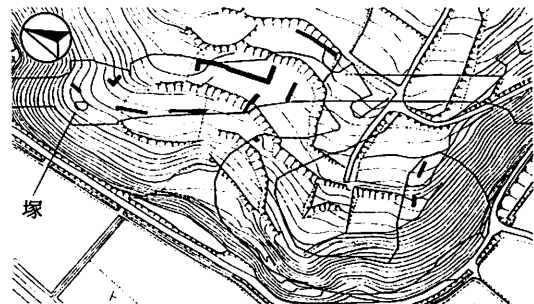
検出遺構：土坑、柱穴跡、塚状遺構

出土遺物：弥生・古墳・中世土器、青銅製香炉

調査概要：本遺跡は弥生・平安時代遺跡とされるが調査歴はない。試掘対象地は丘陵西端の傾斜変換点付近で現況はテラス状平坦地が連続する。ここに人力と重機で10本のトレンチを掘削した結果、北西部平坦地に中世屋敷跡が存在し、その下層に弥生・古墳時代土器包含層が部分的に残存することが知られた。さらに、北西尾根上に河原石集積の塚状遺構も発見された。



第27図 月岡遺跡の位置（1：100,000）



第28図 月岡遺跡トレンチ配置（1/3,000）

14 ^{やまのかみ} 山の神遺跡ほか（アルプスあづみの公園関連）

担当者：川崎 保、西嶋 力

遺跡の立地：乳川扇状地の扇央

発掘調査（肩平遺跡・まねき遺跡）

内容 肩平遺跡で土坑28基、まねき遺跡で土坑70基、縄文土器、頁岩剥片などの遺物が検出された。

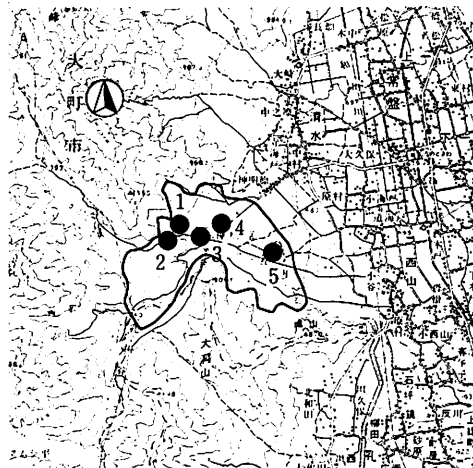
試掘調査（肩平遺跡・山の神遺跡）

内容 埋没流路（道路）南側では、竪穴住居跡、土坑、集石炉などの遺構や縄文土器などが検出された。北側でも縄文土器が採集されたが、遺構は検出されなかった。

整理作業（山の神遺跡）

内容 本年度は報告書刊行に向けての整理作業。

遺物の実測、遺構の照合、観察表の作成、報告書の執筆などが行われた。詳細は報告書を参照されたい。



第29図 公園関連遺跡位置（1：100,000）

	遺跡名	所在地	調査期間	調査原因	調査面積
1	肩平	大町市常盤7836-5ほか	4月22日～ ～6月13日	神明原開田線	1,800㎡
2	まねき	大町市常盤7923-3ほか			3,200㎡

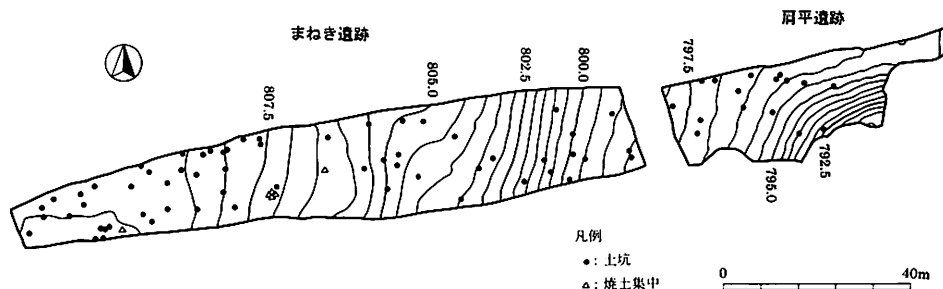
第1表 発掘調査遺跡

	遺跡名	所在地	調査期間	調査原因	対象面積	試掘面積
3	肩平	大町市常盤7836-5ほか	6月6日～ ～6月28日	第一駐車場	29,600㎡	2,200㎡
4	山の神	大町市常盤7930-1ほか			3,400㎡	410㎡

第2表 試掘調査遺跡

	遺跡名	所在地	調査年度	遺跡の内容
5	山の神	大町市常盤7992ほか	平成9～12年度	縄文時代早期の集落遺跡

第2表 整理遺跡



第30図 まねき・肩平遺跡遺構配置（1：1,600）

担当者：柳澤亮・寺内隆夫

経過 茅野市北山に所在する縄文時代中期～後期の遺跡である。両遺跡は八ヶ岳北西麓の同一の段丘上に並んで立地している。10～12年度は本調査、13・14年度は整理作業を行ない、15年度に報告書刊行を予定している。これまでの状況は年報15～18を参照されたい。

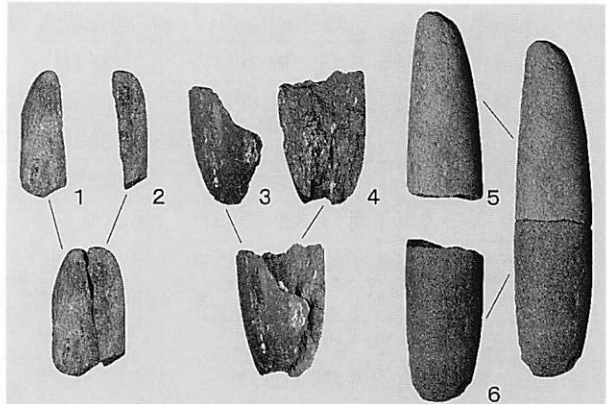
14年度の整理作業 遺構図の合成がほぼ終了し、全長800mに及ぶ両遺跡における、地形や時期ごとの遺構配置が明らかになってきている。また縄文土器の実測ではデジタルカメラ撮影とパーソナルコンピュータによる画像出力を採用し、作業効率を高めている。

成果 磨製石斧の遺跡間での接合状況についてまとめる。聖石遺跡では56点、長峯遺跡では190点が出土し、石材には緑泥石片岩が63%、透閃石岩（軟玉）が23%の割合で使われている。

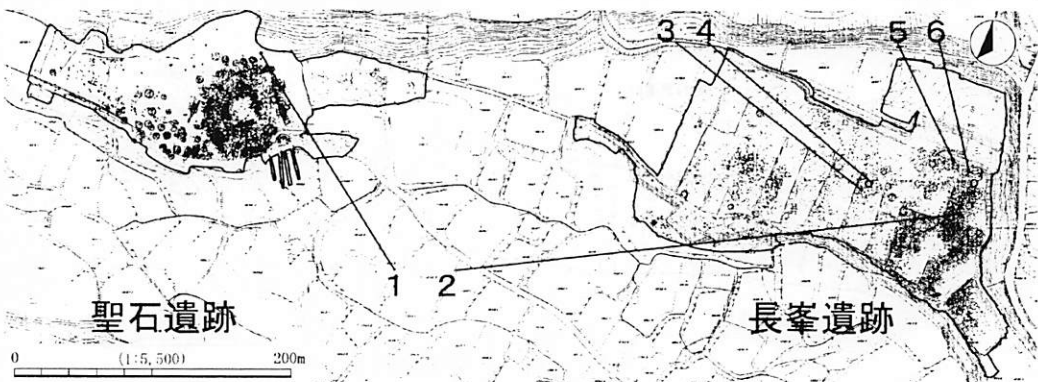
石材ごとに接合作業をしたところ、6点が接合した（第30図）。いずれも緑泥石片岩で1・2は遺跡間での接合資料である。2点の出土位置は直線にして525m離れている（第31図）。定角式磨製石斧の基部にあたり、1は聖石遺跡の斜面地の捨て場跡、2は長峯遺跡の住居跡から出土した。どちらも共伴する土器から縄文時代中期後葉に当てはまる。遺存状態には差異があり、1は周縁が摩滅して全体に退色している。摩滅の要因には、敲石に転用した可能性が考えられる。2は色調・表面ともにさほど変質していない。

3～6は乳棒状磨製石斧で3・4が刃部、5・6が1個体分の接合となっている。いずれも長峯遺跡で、それぞれの出土位置も近い。

今回、同一事業の調査により、遺跡を超える接合関係をとらえることができた。この成果もふくめ、報告書では詳細な調査成果を公表したい。



第30図 接合した磨製石斧 1：聖石、2～6：長峯（縮尺1：5）



第31図 接合した磨製石斧の出土地点（1：5,500）※図中の数字は、第30図の遺物番号と対応する。

16 ^{みのわ}箕輪遺跡 (国道153号松島バイパス・伊那バイパス関連)

本年度は平成12年度調査域北側に続く松島バイパス4車線化に伴う調査と平成12・13年度調査分の整理作業を実施した。

松島バイパスの調査

所在地：上伊那郡箕輪町中箕輪

調査担当：市川隆之・青木一男

調査面積：2,000㎡

調査期間：平成14年4月4日～5月2日

遺跡の立地：天竜川右岸の沖積地

検出遺構：水田3箇所・杭列2条・溝跡5条

検出遺物：古墳土師器・平安須恵器・中世焼物・杭

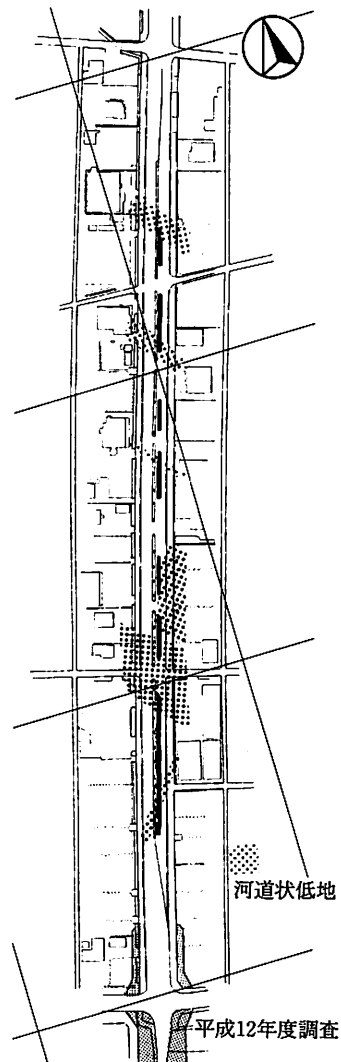
調査の概要：対象地は松島バイパス未共用2車線分で、箕輪遺跡北限と推定されているところである。東側4m程が下水管埋設によって破壊されており、残存する幅3m前後を7つの地区に分けて調査した。

調査域全域の微高地を削平して低地を埋める造成が加えられているが、旧地形は調査域中央付近から南部がやや幅広い河道状低地が連続する地形、北部は狭い河道跡が若干あるものの相対的に微高地域となる。ただし、北部は天竜川の氾濫を受けやすい環境か、南部に分布する腐植由来の黒色土層は確認できなかった。遺構は南部河道状低地内で杭列や溝跡、水田跡、北部で近世の微高地上を水田化した際の畔痕跡、耕作に関連すると思われる土杭など耕作関係の遺構が見つかった。また、北端で古墳時代土師器が僅かながらまとまって採取された。

整理作業 平成12・13年度調査分の遺構基礎整理と土器洗浄・注記・木器実測などの遺物整理作業を進めた。木製品は大部分が杭であるが、古墳時代水田畔内横木として取り上げられた材に田舟の1/4の破片、柱材などの建築材が認められている。遺構については調査域全体に類似方位(正方位)の遺構が認められ、比較的新しい時期ながらある段階で広域に共通区画が採用された可能性も窺えている。



第32図 箕輪遺跡の位置 (1:100,000)



第33図 調査地点 (1/5000)

17 ^{まるやま}丸山遺跡（県単農免農道事業関連）

担当者：藤原直人

経過と今年度の作業：平成13年度の発掘調査終了後、冬期整理期間中に遺物の洗浄と注記（洗浄のほとんどは現場の雨天時に行ったためテン箱残り数個分で、注記については全体の半分ほど現場で実施していたので残りテン箱20個程度）を行い、それに並行して図面・写真の分類・整理を行った。また、測量業者から納品されたデジタル遺構測量図の修正を合わせて行った。

平成14年度、遺構実測図については、測量業者から納品されたデジタル遺構測量図の修正・加工、それに合わせて全ての手取の遺構図面はパソコンのグラフィックソフトのイラストレーターを用いたデジタルトレースを試みた。遺物図に関してはハード・人員の制約から従来通りの方法で行い、編集割り付けは割り付けソフトを用いて行った。

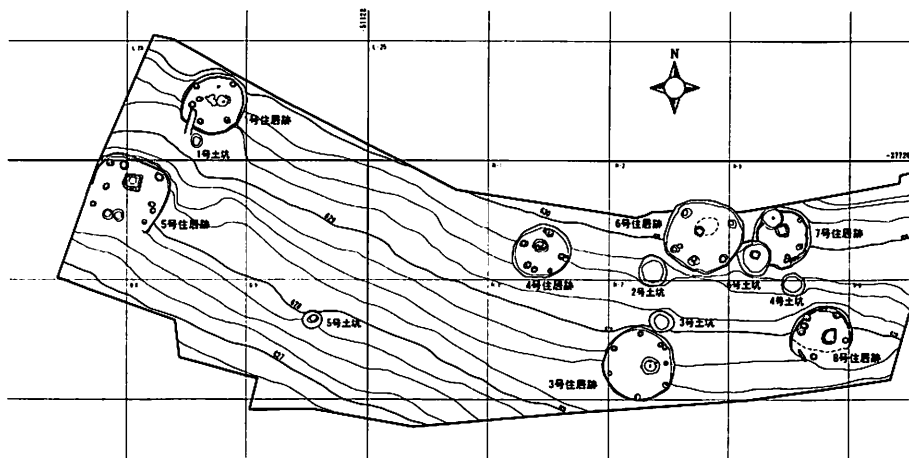
今年度の成果：遺構に関しては、竪穴住居跡の平面形が注目される。隅丸方形・円形の他に多角形の住居跡が半数ほどを占めている。6号土坑では、住居跡の炉に見られる石組みに類似した石組みが覆土中で確認されている。しかし、その石組みは被熱しておらず炉として機能していた形跡はなかった。他の土坑に関しても2号土坑では「コ」の字状の石組みの痕跡が観察されている。類似例は今のところ県内では不明であるが、県外では山梨県御坂町の桂野遺跡（平成9・10年調査）で報告※されている。

遺物に関しては、伊那谷の縄文時代中期については以前からさまざまな型式の土器が見られることが知られ、また、中央道と数件の発掘調査を除いては大規模な発掘が行われていなかった。そのため、土器編年の研究・確立がやや停滞する傾向にあった。本遺跡の1号住居跡からは、東北南部の大木8b式土器（第34図）などが在地の唐草文系土器と共に数点出土している。3号住居跡からは、東海系の北屋敷式土器の破片や下伊那地方に主体があると思われる土器（飯田市大門原遺跡のIII a 類似）が出土するなど、周辺各地との交流を考える上で貴重な資料が出土している。



第34図 1号住居跡出土土器（1：8）

※「御坂町桂野遺跡の縄文時代中期の墓」望月和幸 1998年 考古学ジャーナル NO.437



第35図 丸山遺跡調査区全体図（1：500）

18 たけさなかほら 竹佐中原遺跡および飯田市山本地区諸遺跡

(一般国道474号飯喬道路(三遠南信自動車道)建設事業関連)

1) 竹佐中原遺跡

遺跡所在地：飯田市竹佐180-1ほか

調査担当者：大竹憲昭・若林卓・藤原直人

上田真

調査面積：13,250㎡

調査期間：平成14年4月11日～同年12月20日

遺跡の立地：古扇状地が浸食される過程で残った丘陵上

遺跡の特徴：旧石器・弥生時代の複合遺跡

主な検出遺構：ブロック1ヶ所(旧石器時代)、
竪穴住居跡1軒(弥生時代)

主な出土遺物：局部磨製石斧・削器・微細剝離痕のある剥片・剥片・碎片(旧石器時代)、土器(縄文・弥生)石器(縄文・弥生)、陶磁器片

遺跡の位置と調査の経緯 竹佐中原遺跡は、長野県南部の飯田市南西部山本地区に位置する(第36図)。遺跡のある小丘陵は、この地域で一番古く形成された扇状地で、はじめは一続きの平坦な扇状地であったが、その後の浸食により、平坦であった扇状地は分断され、東西に長い丘陵が形成された。竹佐中原遺跡はその丘陵のひとつに立地する。標高は612mを測る。

竹佐中原遺跡はインターチェンジ予定地にあたり、一昨年度から調査が行われてきた。昨年度発見された旧石器は、県内でも最古級の石器と考えられ、後期旧石器の初頭からいわゆる前期・中期旧石器時代(今から3万数千年以前)にさかのぼりうる可能性が高く、注目を集めた。本年度も4月から発掘調査を開始し、新たな石器の出土地点を発見、それらは昨年度の石器群とは異なる特徴をもつ石器であることが確認された(第37図)。

発見された旧石器時代の石器群 今年度は、丘陵平坦部を広域に調査し、昨年の石器群と同一層準で、新たな石器群を検出した。それらは、数十mの間隔をもって発見されたため、地点という名称を用いることにした。昨年石器が発見された個所をA地点、今年度新たに発見された個所をB～E地点とした。

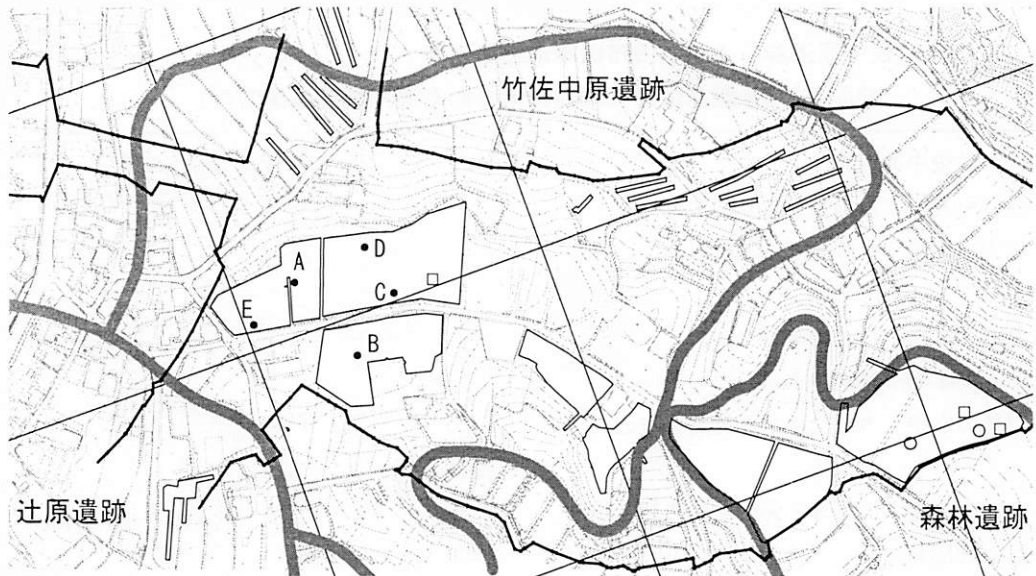
B地点は、A地点の南東約70mに位置する。11点の石器が発見され、散漫な分布ではあるがブロックとして認定できる。珪質凝灰岩製の削器1点ほかは、剥片・碎片であった。碎片が主体を占める点、碎片をほとんどもたないA地点の石器群とその内容が異なる。また使用されている石材も珪質凝灰岩、緑色岩で、A地点の石材とは大きく異なる。

C地点は3点を石器として認定している。B地点とD地点の中間に散漫に分布する。いずれも剥片で、珪質凝灰岩1点と緑色岩2点であった。

D地点からは緑色岩製の局部磨製石斧が、E地点から黒曜石製の使用痕のある剥片がそれぞれ



第36図 竹佐中原遺跡の位置(1:100,000)



第37図 竹佐中原・森林遺跡全体図（●旧石器出土地点、○縄文時代遺構、□弥生時代遺構）

れ単独出土している。局部磨製石斧は、その特徴から後期旧石器時代の前半期（3万数千年前～2万数千年前）の所産と考えられる。また、B・C地点の緑色岩とは酷似しており、ほぼ同時期であった可能性が強い。黒曜石は、現知見では、3万数千年前以降の後期旧石器時代になって使用されるようになる。このことから、E地点の石器も後期旧石器時代の所産と考えられる。

本年度の調査では後期旧石器時代の様相を示す石器群が調査されたといえる。竹佐中原遺跡は、後期旧石器を遡る可能性が高いA地点の石器群と、後期旧石器時代の特徴をもつB～E地点の石器群の二つが、ひとつの丘陵の上に隣り合って残されていたことになる。今後A～E地点相互の関係を分析・検討することが重要となってきた。

2) ^{もりばやし}森林遺跡 調査面積9,350㎡

竹佐中原遺跡と同一丘陵の尾根筋下方に位置している。遺構は縄文時代中期の竪穴2基、弥生時代後期の竪穴住居2軒が検出された。縄文時代中期の竪穴は直径3m程の円形プランで、断面形は緩やかなU字形を呈する。炉をもたず、柱構造も明確ではない。東側の竪穴は浅いが、西側の竪穴は80cm程掘り込んでおり非常に深い。弥生時代後期の竪穴住居2軒は丘陵頂部に比較的近接して営まれている。方形ないし長方形



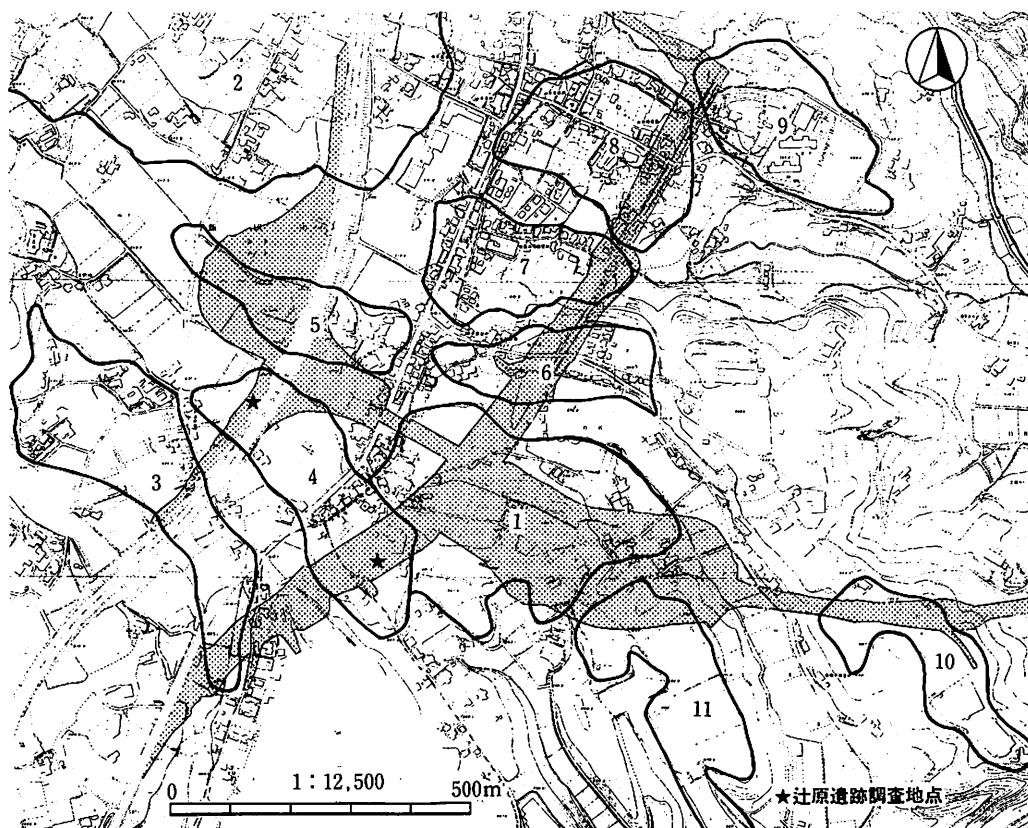
第38図 森林遺跡 SB04

を呈する平面形状を有し、4本主柱の南側の柱穴間に炉を築く。規模は西側の住居が5.7×5.3mを測り、東側の住居は8.3×7.0mと大形である。また、竹佐中原遺跡と同様な方法でグリッド発掘を行った結果、点々とナイフ形石器ほか、剥片類10点ほどの出土をみた。周囲のグリッドも拡張したが、ブロックと認定できるような集中部は検出されなかった。

3) 辻原遺跡 調査面積600㎡

竹佐中原遺跡と同じ丘陵の尾根筋上方に隣接する。本年度は以下の二地点で調査を行った。中央道拡幅部分の調査では、昨年度に検出された礫集中が、自然状態でローム層（竹佐中原遺跡4層下部～5層相当）に含まれるものであって、人為的形成ではないことが明らかになった。併行して、ローム層のグリッド発掘を行ったが、石器は出土しなかった。

アクセス道路部分の調査では、縄文時代中期後半と思われる土坑が1基検出された。僅かに袋状を呈する直径90cmの円形土坑である。



第39図 飯田市山本地区の諸遺跡

1. 竹佐中原遺跡 2. 山本西平遺跡 3. 赤羽原遺跡 4. 辻原遺跡 5. 石子原遺跡 6. 並松遺跡 7. 寺沢遺跡 8. 山本大塚遺跡 9. 白山遺跡 10. 下り松遺跡 11. 森林遺跡

II 普及・公開活動の概要

1 現地説明会等

今年度発掘調査が実施された遺跡のうち、3遺跡で当センター主催の説明会を実施、道路公団主催の見学会も1遺跡で行われた。このほか学校等による見学も受け入れ、埋蔵文化財の調査現場を公開した。

豊田村千田遺跡では、11月17日（日）に現地説明会を実施した。千曲川沿いに見つかった縄文時代中期の遺構・遺物を公開し、午前のみで50名の見学者が訪れた。また、6月から10にかけて、地元の豊井小学校から延べ79名、豊田中学校から延べ60名の見学・調査体験があった。

上山田町力石条里遺跡群では11月30日（土）に現地説明会を実施し、弥生時代の遺構・遺物を公開した。弥生時代前期の再葬墓や後期の住居跡の見学に204名が訪れた。10月9日（水）には、職場体験で塩尻市立丘中学校より1名を受け入れた。

飯田市竹佐中原遺跡・森林遺跡では12月1日（日）に現地説明会を実施し、旧石器時代の石器を公開した。昨年、県内最古級の石器が出土したことで注目された遺跡の調査ということで関心も高く、飯田市の方々を中心に150名の見学者が訪れた。

道路公団主催の遺跡見学会は、小諸市鎌田原遺跡で9月8日（月）・11月5日（火）・11月22日（金）・11月25日（月）に開催され、4日間で240名が訪れた。

このほか、長野市立通明小学校6年生4クラスが5月21・22日（火・水）に当センター職員による授業を学校で受け、5月30・31日（木・金）に篠ノ井整理棟での整理作業見学に訪れた。信濃町仲町遺跡では、6月12日（水）に信濃町立野尻湖小学校6年生14人が調査体験をした。



第40図 力石条里遺跡群での現地説明会



第41図 千田遺跡 豊井小学校の見学



第42図 鎌田原遺跡 道路公団主催の遺跡見学会

小諸市鎌田原遺跡・野火附城跡では、7月1・2日（月・火）に小諸市立美南ヶ丘小学校6年生145名が見学し、8月1日（水）に同小学校6年生10名が学習に訪れた。

2 展示会等

1) 平成14年度長野県埋蔵文化財センター速報展「長野県の発掘2002」

長野県埋蔵文化財センター・長野県立歴史館と共同して、平成14年度に調査した埋蔵文化財資料や関連遺跡の資料を展示することにより、県民に広く簡便に地域の歴史や埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的とした。長野県立歴史館企画展示室を会場とし、3月15日（土）から5月5日（月）までの開催である。期間中、4月12日（土）には、今年度調査した遺跡のうち、4遺跡の報告会を予定している。



第43図 平成13年度速報展

なお、平成13年度速報展「長野県の遺跡発掘2001」は平成14年3月16日（土）から5月12日（日）までの開催で、10,560人の来館者があった。また、この速報展に伴って「日本列島に前期・中期旧石器時代人の足跡は残されていたか？」と題した講演会を財団法人八十二文化財団の協力を得て3月17日（日）に実施した。事例報告と明治大学教授戸沢充則氏の講演を行い、224名の聴講があった。

〔当センター保管資料〕

信濃町：仲町遺跡、豊田村：千田遺跡、更埴市：東條遺跡、東中曽根遺跡、西中曽根遺跡、上山田町：力石条里遺跡群、小諸市：鎌田原遺跡・野火附城跡、白田町：離山遺跡、大町市：山の神遺跡、茅野市：聖石遺跡・長峯遺跡、箕輪町：箕輪遺跡群、飯島町：丸山遺跡、飯田市：竹佐中原遺跡

〔市町村教育委員会保管資料〕

更埴市：屋代清水遺跡、三岳村：小島遺跡

2) 長野県庁1階ロビーでの展示

長野県教育委員会文化財・生涯学習課の事業に協力し、行政関係者や県庁を訪れる県民を対象に、当センター及び埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうことを目的として、平成14年2月12日（水）から2月21日（金）まで実施した。今年度当センターで発掘調査・整理作業を



第44図 平成13年度速報展に伴う講演会

施した遺跡から、豊田村千田遺跡、上山田町力石条里遺跡群、茅野市長峯遺跡・聖石遺跡から出土した遺物や写真パネルを展示した。併せて、当センターの業務内容を紹介するパネルや刊行物等も展示した。

3 指導

期 日	講 師	指導内容
14/5/7	奈良教育大学・長友恒人教授	竹佐中原遺跡の年代調査について
14/5/18~19	沼津工業高等専門学校・望月明彦教授	仲町遺跡他出土の黒曜石の産地固定について
14/9/11	竹佐中原遺跡調査指導委員会 明治大学・戸沢充則名誉教授 東北学院大学・佐川正敏教授 東京大学・佐藤宏之助教授 地質学者・松島信幸氏 考古学者・神村透氏	竹佐中原遺跡の調査について
14/10/31	岡山大学・稲田孝司教授	竹佐中原遺跡の調査について
14/12/2	明治大学・石川日出志教授	力石条里遺跡群の調査について

4 刊行物

「県単道路改良（一）古間（停）線埋蔵文化財発掘調査報告書―吹野原A遺跡」（2002年3月）

「国営アルプスあづみの公園関連埋蔵文化財発掘調査報告書II―山の神遺跡」

「農林漁業用揮発油税財源身替事業（県単農免農道整備事業）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―丸山遺跡」

「長野県埋蔵文化財センター年報19」

「長野県の考古学」II

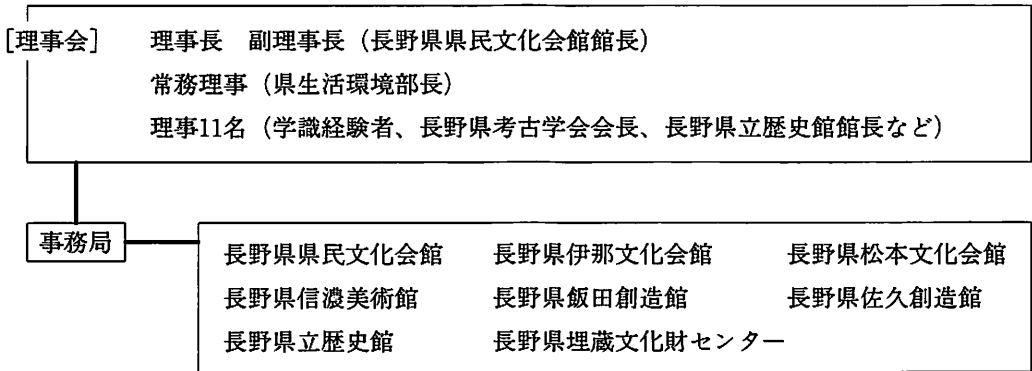
このほか当センターの内部情報紙として調査速報を年3回発行した。

III 機構・事業の概要

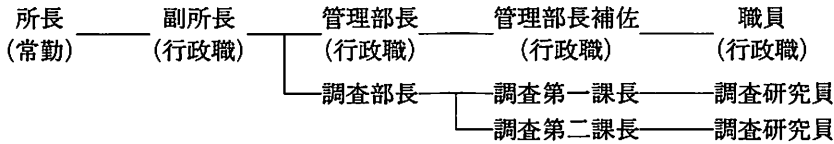
1 機構

(1) 組織

① 長野県文化振興事業団組織



② 長野県埋蔵文化財センター組織図



(2) 所在地

更埴市屋代清水260- 6

篠ノ井整理棟 長野市篠ノ井布施高田963- 4

2 事業

(1) 調査事業

ア 調査遺跡

中部横断自動車道関連	小諸市内 3 遺跡	日本道路公団東京建設局の委託
北陸新幹線関連	中野市内 1 遺跡	日本鉄道建設公団の委託
国道18号野尻バイパス関連	信濃町内 1 遺跡	国土交通省関東地方整備局の委託
国道18号上田篠ノ井バイパス関連	更埴市内 4 遺跡	国土交通省関東地方整備局の委託
国道474号飯喬道路関連	飯田市内 6 遺跡	国土交通省中部地方整備局の委託
国営アルプスあづみの公園関連	大町市内 3 遺跡	国土交通省関東地方整備局の委託
千曲川替佐築堤関連	豊田市内 1 遺跡	国土交通省北陸地方整備局の委託
県道力石バイパス関連	上山田町内 1 遺跡	長野県土木部更埴建設事務所の委託

県道川上佐久線改良関連	白田町内 1 遺跡	長野県土木部白田建設事務所の委託
国道153号松島バイパス関連	箕輪町内 1 遺跡	長野県土木部伊那建設事務所の委託
広域農道佐久南部関連	八千穂村内 1 遺跡	長野県佐久地方事務所の委託
畑地帯総合整備事業関連	南牧村内 1 遺跡	長野県佐久地方事務所・南牧村の委託

イ 整理事業

国道18号野尻バイパス関連	信濃町内 4 遺跡	国土交通省関東地方整備局の委託
国営アルプスあづみの公園関連	大町市内 1 遺跡	国土交通省関東地方整備局の委託
国道153号伊那バイパス関連	箕輪町内 1 遺跡	長野県土木部伊那建設事務所の委託
県単農道整備事業関連	飯島町内 1 遺跡	長野県上伊那地方事務所の委託
担い手育成基盤整備事業関連	茅野市内 2 遺跡	長野県諏訪地方事務所の委託

ウ 保存処理 長野市、中川村、日義村、牟礼村の委託

エ 技術指導

調査研究員を原村に 1 名、木曾広域連合に 2 名の技術指導を実施

(2) 事業費

中部横断自動車道関連：96,869千円、北陸新幹線関連：4,054千円、国道18号野尻バイパス関連：85,835千円、国道18号上田篠ノ井バイパス関連：145,958千円、国道474号飯喬道路関連：100,563千円、国営アルプスあづみの公園関連：38,754千円、千曲川替佐築堤関連：49,991千円、国道153号松島バイパス関連：4,484千円、国道153号伊那バイパス関連：21,354千円、県道改良事業関連：7,462千円、県道力石バイパス関連：87,455千円、広域農道関連：19,027千円、畑地帯総合整備事業関連：3,983千円、担い手育成基盤整備事業関連：36,155千円、県単農道整備事業関連：13,217千円、保存処理関連：1,139千円、研修事業：651千円

(3) 普及活動 (22ページ参照)

(4) 職員研修

ア 講師招聘および来所による指導・講習会等 (24ページ参照)

イ 学会関係研究会・研修会・講演会

期 日	発表者	内 容
14/5/31	大竹憲昭	「山本、竹佐中原遺跡にかかわる飯田・下伊那の歴史的意義について」飯伊市町村教育委員会連絡協議会
14/6/1	町田勝則	「八幡遺跡群の調査について」更埴市八幡公民館さわやか学級
14/6/8～9	寺内隆夫	「火炎土器様式圏の研究」新潟県立歴史博物館
14/11/16～17		
15/3/15～16		
14/8/26	大竹憲昭	「竹佐中原の調査について」第四紀学会地域巡見
14/8/29	黒岩 隆	「縄文土器の世界」長野北ロータリークラブ例会
14/9/13	黒岩 隆	「縄文土器の規格性」日本計量史学会
14/10/5	大竹憲昭	「日本列島の旧石器文化はどこまで遡るか」上田郷友会例会
14/10/12	市川隆之	「阿智村杉の木平遺跡出土の灰釉陶器・中世陶器について」下伊

14/10/13	大竹憲昭	那教育会考古学委員会
14/10/23	西山克己	「竹佐中原遺跡の概要」下伊那教育会地理委員会
	黒岩 隆	「千田遺跡の調査について」豊田村教育委員会講習会
14/10/25	寺内隆夫	「千曲川流域の中期初頭・前半の土器」群馬県北橋村中央公民館
14/11/10	青木一男	「中部地域・松原遺跡と篠ノ井遺跡群」日本考古学協会2002年度大会
	町田勝則	
14/11/16	青木一男	「弥生時代の千曲川水系の墓制について」飯田市上郷考古博物館
14/11/21	町田勝則	「石器の観察・記録・報告の留意点、分類への視座」愛知県市町村職員発掘調査技術等研修会
そのほか、各種学会、研究会、シンポジウムなどへの参加多数		

ウ 県外博物館・埋文センター・遺跡等視察および資料調査

期 日	参加者	視察・調査他
14/5/13～15	柳澤 亮	茨城県教育財団、埼玉県埋蔵文化財調査事業団等
14/7/9～11	寺内隆夫	岐阜県文化財保護センター、宮川村教育委員会等
14/7/10～12	町田勝則	秋田県埋蔵文化財センター、秋田県弘田柵跡調査事務所等
14/9/7～8	河西克造	織豊期城郭研究会、近江八幡城跡
14/9/11～13	藤原直人	新潟県埋蔵文化財調査事業団、朝日村教育委員会等
14/10/23～25	太田秀保	青森県立郷土館、三内丸山遺跡等
14/10/23～25	大竹典昭 谷 和隆	熊本県教育委員会、大分県教育委員会、北九州市教育委員会等

エ 全埋文協などへの参加

期 日	会 議 名	開催地	参加者
14/4/19	全埋協中部北陸ブロック連絡会	新潟市	原聖、小林秀夫
14/6/13～14	第23回全埋協総会	藤原町	深瀬弘夫、小林秀夫
14/10/10～11	全埋協中部北陸ブロック コンピューター等研究委員会	富山市	川崎保、谷和隆
14/10/17～18	全埋協研修会	金沢市	原聖、佐々木大介、土屋積
14/10/24～25	全埋協中部北陸ブロック連絡会	石和町	田中照幸、荒井恵美子、廣瀬昭弘
14/10/24～25	関東甲信越静地区埋蔵文化財担 当者会	千葉市	鶴田典昭
14/11/21～22	関東甲信越静地区埋蔵文化財担 当職員共同研修協議会	東京都	西香子

オ 県内市町村および関係機関への協力・指導等

期 日	市 町 村 等	協力・指導内容	協力者
14/ 4 /12	須坂市	井上氏城跡の発掘調査について 県史跡伴野城跡保存整備委員会	河西克造
14/ 7 /17	佐久市		河西克造
14/10/ 2			
14/12/ 6			
15/ 2 /17			
14/ 8 / 1	三水村	芋川氏館跡の調査について	河西克造
14/ 8 / 7			
14/10/ 1	波田町	若澤寺遺跡の調査について	市川隆之
14/ 8 /22	松本市	林山腰遺跡の調査について	河西克造
15/ 1 /27			
14/10/17	長野市	史跡大室古墳群整備委員会	小林秀夫
14/11/15	和田村	男女倉遺跡の調査について	谷和隆
14/11/29	松本市	松本城二の丸跡の調査について	河西克造

カ 平成14年度市町村埋蔵文化財担当者発掘調査技術研修会

－長野県教育委員会・県立歴史館と共催

1 日時	平成14年11月1日		
2 会場	飯田市竹佐中原遺跡、山本公民館		
3 内容			
(1) 現地研修	竹佐中原遺跡	長野県埋文センター	
(2) 事例報告	竹佐中原遺跡の調査概要	長野県埋文センター	
(3) 講演	「旧石器時代研究の動向について」	岡山大学稲田孝司教授	
4 参加者	62名		

キ 資料貸し出し

期 間	遺 跡	貸し出し資料	貸出先・目的
14/ 9 / 3～11/14	長峯遺跡	出土土器、土製品、 装身具等	上田市立信濃国分寺資料館特別展
14/10/10～12/ 6	竹佐中原遺跡	出土旧石器	飯田市美術博物館特別展
14/10/21～11/ 5	千田遺跡	写真パネル等	豊田村民俗資料館講習会
15/ 1 /28～ 2 /21	聖石・長峯遺跡	遺物写真等	徳島市立考古資料館特別企画展

ク 同和研修

期 日	研修名	会 場	参加者
14/ 7 /24	企業人権同和教育推進大会	松本市音楽文化ホール	田中照幸
15/ 1 /29	部落開放研究集会	上山田町文化会館	小林秀夫

平成14年度役員及び職員

所長	深瀬弘夫					
副所長	原 聖					
管理部長	原 聖 (兼)			調査部長	小林秀夫	
管理部長補佐	田中照幸					
職員	佐々木大介 (主幹)			荒井恵美子 (主事)		
調査課長	廣瀬昭弘		土屋 積			
調査研究員	青木一男	市川桂子	市川隆之	伊藤友久	上田 真	宇賀神誠司
	太田秀保	大竹憲昭	河西克造	川崎 保	黒岩 隆	桜井秀雄
	田中正治郎	谷 和隆	鶴田典昭	寺内貴美子	寺内隆夫	豊田義幸
	賛田 明	西 香子	西嶋 力	西山克己	廣田和穂	藤原直人
	町田勝則	柳澤 亮	若林 卓			
調査員	中島英子	西嶋洋子	山崎まゆみ			

長野県埋蔵文化財センター年報19 2002

発行日 平成15年3月30日

編集発行 (財)長野県文化振興事業団

長野県埋蔵文化財センター

〒387-0007 更埴市屋代清水260-6

TEL 026-274-3891

印刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381-0037 長野市西和田470

TEL 026-243-2105